

逗子市通園事業の引き継ぎ に関する説明会

社会福祉法人 県央福祉会

事業所案内

- 県央療育センター〈子どもの生活相談室〉
(1975年7月)
- 海老名市立わかば学園 (2000年4月)
- 湘南北部療育センター (2008年4月)
- 相模原南部療育センター (2009年11月)
- キンダーハイムこうなん (2009年11月)
- 相模原中部療育センター (2010年6月)
- やまと発達支援センターWANTS (2011年4月)



事業形態

- 児童発達支援事業（未就学児）
- 放課後等デイサービス事業（学齢児）
- 保育所等訪問事業
- 相談支援事業（障害児・特定・一般）

県央福祉会の 児童発達支援部門

療育（発達支援）は、幼児期から成人期に向けて、「自立的で豊かな生活の広がり」を目的に、子ども一人ひとりの様々な特性を理解し、その特性に合わせた一貫した支援を家族と協働しながら取り組んでいます。

療育活動は年齢に応じ、本人の興味関心を活かしながら、身辺自立から作業や調理、そして余暇活動など地域資源を使い、将来に向けての豊かな生活へと様々な活動を行っています。

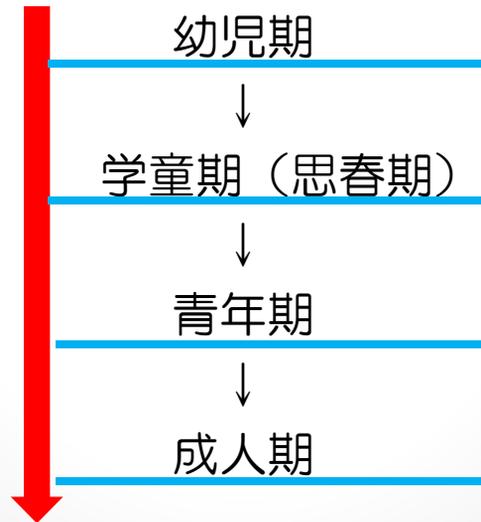
5

ライフサイクルを通じた支援

- ライフステージに沿った支援
- ライフステージを通じた支援

6

ライフサイクルの考え方から



7

「大人としてどんな生活をして
もらいたいのか」を家族と一緒
に具体的にイメージをし、共有
化している



「**自立的な生活**」を目指そう

8

自立的な生活とは

- できないところは支援してもらいながら、できるところを一人ですることを大切に

「できた」「わかった」を経験し、自立を獲得する。

- 小さいうちから様々な成功体験をし、自己肯定感を育てる。

9



児童発達支援

【午前 かたつむりグループ】

*2歳～就学前、親子同伴、週1日

■グループの流れ

10:00 来所、個別課題、自由遊び

10:40 サーキット、あつまり

11:00 メイン活動

感覚遊び、お散歩、製作、ムーブメント
など

11:20～12:00

おやつ、さようなら

■大切にしていること

- ①色々な経験を提供できるように
- ②日常生活に繋がるような工夫・手立て
- ③親御さんとの活発な意見交換や話し合い

【午後 就園児グループ】

*就園児、子どものみ、2週に1回

<主な目的・活動内容>

■グループの流れ

15:30 来所、個別課題

16:00 あつまり、メイン活動

ルール性のある活動やゲーム、製作など

16:30 おやつ、親御さんに活動の
フィードバック

17:00 さようなら

■かたつむりグループとの違い

- ①ルールや約束といった社会性を重視
- ②集団（幼稚園・学校）を見据えた枠づけ Ex:着席の維持、言語指示への
応答など

10

放課後等デイサービス



【グループ】

*小学生～高校生の2名～6名の小集団
2週に1回、1時間30分

- 子どもの年齢・特性やご家族のニーズ・目標などの総合的な観点から、グループを編成。
- グループごとに目標は違うものの…
 - ①小集団でのルールや他者への意識・コミュニケーション面での取り組み
 - ②個別課題や調理・製作活動を通じた、日常生活スキルや余暇を拓ける取り組み
 - ③社会資源を利用した、社会生活スキルの取り組み
 - ④小学生高学年～中学生では、作業課題を設け、働くことへの意識を拓けた取り組み
- こんなことをしています…
子ども達で予定を立てる、調理活動、製作活動、電車でのお出かけ、外食体験、お買い物

【個別】

*小学生～高校生（児童発達支援も含む）
2週に1回、60分

- 子どもの特性やご家族のニーズ、支援目標から、個別も対応。
- グループとの違い…
 - ①職員と一対一でのやりとりを通じ、安定した関係を築き一つひとつのスキルを積み上げる。
 - ②グループよりも、より本人のペースやご家族からのニーズ対応をしやすく、一つずつじっくりと積み上げていきやすい。

11

幼児期から成人期に向けて

一貫した理解の中で育つこと

幼児期



学童期



思春期



成人期

一貫して

「本人」について
理解があること



支援の前に

まずは「理解」されている

12